

平成 28 年度

武蔵野市非核都市宣言平和事業の記録



武蔵野市 非核都市宣言平和事業実行委員会

平和の日メッセージ

昭和19年(1944年)11月24日、武蔵野が初めて空襲を受けてから、72年の年月が経ちました。

当時この地には、ゼロ戦などの戦闘機のエンジンを製造していた中島飛行機武蔵製作所という軍需工場がありました。この工場は東洋一と言われるほど大規模で、米軍による本格的な本土攻撃の第一目標となりました。終戦までに空襲は9回を数え、工場関係者200名以上が犠牲となり、周辺地域でも幼子を含め多くの住民が巻き添えとなりました。

武蔵野市では、この空襲で犠牲になられた方々に哀悼の意を表するとともに、戦争の記憶を継承し、平和の尊さを次世代につないでいくために、初空襲のあった11月24日を「武蔵野市平和の日」に制定しました。市立公園はらっぱむさしには、平和の日を記念して、長崎市から譲り受けた「被爆クスノキ2世」と市民の木である「ハナミズキ」を植樹しました。現在も「平和の木」として、市民の皆様が親しまれ、元気に成長を続けています。

戦争を体験された方から直接体験談を聞く機会も大変貴重になっています。市では、原爆投下やシベリア抑留を体験された市民の方にお話を伺い、映像としてその記録を残しています。戦後70年余を経た今、私たちには、この「体験の記憶」を語り継いでいく使命があります。貴重な記憶を風化させず、未来へつないでいくため、今後も若い世代に武蔵野の空襲の歴史や戦争体験の記憶を継承しながら、平和の尊さ、戦争の悲惨さを伝えていく活動を市民の皆様とともに取り組んでまいります。

そして、原爆投下による広島、長崎の悲劇が二度と世界で起こることのないよう、武蔵野市は、国内外の自治体と連携しながら、戦争も核もない世界の実現に向けて、平和への取り組みを推進してまいります。

2016年11月24日

武蔵野市長 邑上守正

まえがき

武蔵野市議会では、昭和 57 年 3 月 29 日に非核都市宣言を行いました。

平成 19 年には、その宣言から 25 年を記念して、地域・平和団体、大学生、公募市民などで構成する非核都市宣言平和事業実行委員会が設置され、それ以降、戦争パネル展や映画上映会、講演会、子ども向けイベントの企画・運営など様々な平和啓発事業を実施してまいりました。また、平成 23 年には、中島飛行機武蔵製作所が初めて空襲を受けた 11 月 24 日を「武蔵野市平和の日」とする条例が制定されました。

平成 28 年度は、木村草太氏による「憲法を読む」をテーマとした講演や、クミコ氏によるミニコンサート、被爆体験者の講演を行うなど、さまざまな平和関連イベントを通して、次世代へ戦争の実相と平和の大切さを継承していく活動を行いました。平成 29 年度には、市内在住の中学生、高校生を長崎へ派遣し、平和交流事業に取り組んでまいります。今後も市民に戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えるため、戦争体験の伝承を継続し、平和への意識を高めていく事業を引き続き行っていきます。

本書は、平成 28 年度に行われた非核都市宣言平和事業の記録集です。

目 次

I 平成28年度 武蔵野市非核都市宣言平和事業の実施状況

- 1 憲法月間記念行事の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 夏季平和事業『戦争も核もない世界を武蔵野から』・・・・・・・・ 1
- 3 平和の日イベント『戦争も核もない世界を武蔵野から』・・・・ 2
- 4 研修会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 5 実行委員会の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

II 平成28年度武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会に

- 参加した実行委員からのメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

平成 28 年度 武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会 委員名簿

選出分野	氏名	団体名
市民団体・大学生	大石 彰	武蔵野市コミュニティ研究連絡会
	澤木 宗人	武蔵野市立小中学校PTA連絡協議会
	伊藤 義則	武蔵野市老人クラブ連合会
平和関連団体	牛田 守彦	武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会
	中里 崇亮	世界連邦運動協会武蔵野支部
	柴田 フミノ	武蔵野けやき会（被爆者の会）
	村田 敦史	武蔵野市国際交流協会
公募委員	小餅 友子	市内在住
	北山 征一	市内在住
	山田 恵利子	市内在住
	中島 敏	市内在住
	島津 好江	市内在住

I 平成 28 年度 武蔵野市非核都市宣言平和事業の実施状況

1 憲法月間記念行事の開催

(1) 作品募集

内容：書道・絵手紙

応募状況：書 道 140 点 うち優秀賞 2 点、入選 16 点

絵手紙 37 点 うち優秀賞 2 点、入選 3 点、実行委員会賞 1 点

表彰：5 月 21 日（土）の記念講演会において、優秀賞受賞者を表彰

展示：応募全作品を 5 月 2 日（月）～13 日（金）まで市役所ロビーで展示

入賞作品については講演会当日（5 月 21 日）に、スイングホールにて展示



(書道・絵手紙 優秀賞作品 4 点)

(2) 講演会の開催

日時：5 月 21 日（土） 午後 1 時 30 分～3 時 30 分

場所：武蔵野スイングホール

内容：講演「憲法を読む」

木村 草太 氏

参加者：167 名（他関係者 17 名）



(3) 横断幕の掲出

「憲法月間 憲法を学びみんなでつくろう平和な暮らし」

5 月 2 日（月）～31 日（火）市役所

2 夏季平和事業 『戦争も核もない世界を武蔵野から』

(1) 写真パネル展の開催（協力：武蔵野けやき会、武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会）

内容：広島・長崎の原爆、武蔵野の空襲と中島飛行機

①武蔵野プレイス 1F ギャラリー 8 月 4 日（木）～9 日（火）

②市役所ロビー 8 月 10 日（水）～8 月 16 日（火）

※会場内で平和啓発映像「戦争体験を語り継ぐ～被爆体験者、シベリア抑留者の声～」上映

(2) 映画上映

8月4日(木) 午後2時～3時45分 武蔵野プレイス4F フォーラム

映画「父と暮せば」

参加者：100名

(3) 子ども向け平和イベント

8月5日(金) 午後1時30分～2時15分 武蔵野プレイス1F ギャラリー

小学生による絵本の読み聞かせ

「かわいそうなぞう」、「ちいちゃんのかげおくり」

参加者：30名



(4) 市民から寄せられた戦争関連資料展示

8月1日(水)～31日(金) 市役所1F ショーウィンドー

3 平和の日イベント 『戦争も核もない世界を武蔵野から』

(1) 写真パネル展の開催

内容：武蔵野の空襲と中島飛行機（協力：武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会）

①11月4日(金)～10日(木) コピス吉祥寺A館2F エスカレーター横

②11月11日(金)～18日(金) 市役所ロビー

③11月18日(金)～25日(金) 武蔵野プレイス ギャラリー

※①②会場内で平和啓発映像「武蔵野の戦争体験を語り継ぐ～平和を願って～」上映



(2) 横断幕の掲出

「平和への願いを込めて 11月24日は武蔵野市平和の日です。」

11月1日(火)～30日(水) 市役所、市内3駅前

(3) 市内各コミセンなどにおけるミニミニ空襲パネル展
市内各コミセンの他、クラフトハウスばくなどで開催

(4) 図書館での中島飛行機や戦争、平和に関する図書の設置

①中央図書館 11月14日(月)～27日(日)

②武蔵野プレイス 11月18日(金)～25日(金)

(5) 平和の日イベント

11月23日(水・祝) 午後2時～4時 武蔵野公会堂ホール

- ・平和啓発映像「戦争体験を語り継ぐ～被爆体験者、シベリア抑留者の声～」上映
- ・戦争体験者からの証言(柴田フミノ氏、藤本竹次氏、大寺正光氏)
- ・武蔵野の空襲に関する解説(牛田守彦氏)
- ・クミコ ミニコンサート

参加者：215名



4 研修会の開催

(1) 実施日 平成29年2月4日(土)

(2) 視察先 しょうけい館
靖国神社

(3) 参加者 実行委員10名、随行職員3名

5 実行委員会の開催状況

	日 時	主 な 内 容
第1回	平成28年4月19日(火)	実行委員会の運営等
第2回	5月17日(火)	憲法月間記念行事、夏季平和事業について
第3回	6月9日(木)	夏季平和事業について
第4回	7月21日(木)	夏季平和事業について
第5回	9月6日(火)	平和の日イベントについて
第6回	10月13日(木)	平和の日イベントについて
第7回	12月5日(月)	憲法月間記念行事について
第8回	平成29年1月10日(火)	憲法月間記念行事について
第9回	3月24日(金)	憲法月間記念行事入選作品(絵手紙)の選考

II 平成 28 年度武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会に 参加した実行委員からのメッセージ

武蔵野市コミュニティ研究連絡会 大石 彰

私は、昨年 5 月から平和事業実行委員会の委員として参加させていただきました。平和事業に対する委員の皆さんのお話を聞き、その熱意と経験談に、少なからず経験した私にも十分、平和の尊さと戦禍の悲惨さを思い出させる内容でした。戦時中の昭和 19 年 8 月、国民学校 3 年生の私は、名古屋市中区伊勢山町に住み、毎日のように空襲警報発令で、防空壕に入り、B29 の爆音と爆弾の音に恐ろしさに身の縮む思いでした。この夏休み中に縁故疎開により浜松市（旧二俣町相津）の、祖母の実家に身を寄せました。浜松は、日産が軍事工場で、爆撃の標的となり、B29、ブラマンの機銃掃射で、家の裏山の杉の大木が根こそぎ倒されました。破片が至る所に飛び散り、ずいぶん恐ろしい目に合いました。破片は 50 センチくらいのもので、学校の理科室に飾りました。幸い怪我人はありませんでした。終戦の詔勅をラジオで聞き、負けたんだと思いました。灯火管制が解除され、電気の傘にかけてあった黒い布が取れたことが思い出されます。それからが大変でした。食糧難です。

今改めてこんな体験を、次世代（子供）に継ぐことが、悲惨な戦争を起こさせないための重要なことだと、皆さんの話を聞くたびに思います。一年間、貴重な体験と、施設の見学をさせていただき、平和の尊さを実感しております。ありがとうございました。

武蔵野市市立小中学校 P T A 連絡協議会 澤木 宗人

PTA 会長会を代表して 28 年度は活動に参加させていただきました。武蔵野市に移り住んで約 10 年。私は、武蔵野市の平和の日がいつなのかも知らずに参加しました。しかしながら、実行委員会の会議やイベントを通して武蔵野市の平和への思いを深く考えさせられました。戦争を知らない世代の私たちができることは（やらなくてはならないこと）、語り継がれてきた悲惨な戦争体験を風化させることなく次世代に語り継ぐことだと思います。

また、研修会で靖国神社と周辺の資料館など時間をかけて訪れる機会があったことは、非常にいい経験となりました。

武蔵野市老人クラブ連合会 伊藤 義則

憲法月間の木村草太氏講演「憲法を読む」は、集団的自衛権のお話で、政府が憲法の拡大解釈をしてまで「駆けつけ警護」ができるようにするなど違憲であると明確にお話しされており大変有意義でした。

一方、平和のイベントの中で、被爆体験者や戦争体験者の証言は、戦後 70 年を経て段々その証言者が少なくなっており、これから戦争の悲惨さを後世に生の声で伝えていけるかを考えさせられました。最後の日帰り研修は、靖国神社を別の角度から見る事が出来てとっても良かったなと感じています。

武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会 牛田 守彦

「戦後 70 年」の節目だった 2015 年を過ぎ、体験世代の高齢化がスピードアップした感じがします。そんななかで、昨夏の平和事業において、被爆者の柴田さん、藤本さん、シベリア抑留体験者の大寺さんから直接、お話をうかがいました。短時間ながら心に響くお話をお聞きし、体験者から直接お話をうかがう重みを強く感じました。それが不可能になる日がやがて来ます。体験をどう継承するか、重い課題だと痛感した 1 年でした。ありがとうございました。

世界連邦運動協会武蔵野支部 中里 崇亮

平成 28 年度は終戦から 70 年、武蔵野空襲から 71 年を迎えた年でありました。戦争体験者がますます減少していく中、戦争の話をする機会も少なくなりました。

私は空襲体験者の一人として戦争、特に地元の中島空襲関連の話題を話すように心がけています。最近地元を離れた中島空襲の体験者にお会いしましたが、多くの体験談を聞くことができました。

昨年は、成蹊大学の武蔵野地域研究「武蔵野市における市民と行政のパートナーシップによる地域づくり」の講師として武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会委員長として「戦争を身近に感じる事が平和への第一歩」（武蔵野市における戦争体験）をお話しすることができました。また、今年度は、武蔵野女子学院高等学校において実行委員の島津好江さんが講師として招かれています。延命時の戦争遺物見学も予定されています。武蔵野市の平和事業取組が広がりを感じています。

戦争体験を目に見える形で残し伝えることが大切だと思います。今や戦争を語る人の高齢化が進んでいます。今後は語り部の養成が急務な課題と考えています。

実行委員の方々の熱心な取り組みにより、平和事業の内容も充実したものになりました。戦争の悲惨さと平和の尊さを武蔵野から発信できますよう頑張りましょう。

武蔵野けやき会（被爆者の会） 柴田 フミノ

過去の戦争（支那事変、大東亜戦争）によって、300 万人以上の若い命を失いました（夢も希望もたくさんあったはず）。多くの都市が焦土と化し、広島、長崎が原爆で多くの命を失いました。あれから 72 年の歳月が流れ世界で最も豊かな国になりました。戦争がもたらした計り知れないあらゆる被害、損害、人命等について忘れ去られたように思います。どうぞ同じ過ちを犯すことがごさいませんように。

過日、靖国神社、しょうけい館に伺ったことが良かったです。現在の平和を感謝するとともに忘れてはならない一頁だと思います。

非核都市宣言を掲げたこの都市に住めてよかったと心より感謝いたします。いつまでもこの平和が続きますように願っております。ありがとうございました。

公益財団法人武蔵野市国際交流協会(MIA) 村田 敦史

住みやすい、暮らしやすいと言われる武蔵野市。歴史をふりかえると、戦時中に空襲に見舞われ、多くの尊い命が失われた痛ましい過去があります。安心して暮らすことができるまちづくりには平和であることが大前提ですが、平和の大切さやありがたみは空気のようなもので、平和をつい当たり前のように思いがちです。

平成 28 年度の平和事業のイベントを通して、戦争体験者のお話を聞いたり、世代を超えて戦争の悲惨さに向き合い平和について考えたり、実行委員の一人として大変貴重な経験をさせていただきました。私の高校時代の英語の先生は広島原爆をテーマにした英語教材をテキストにしていました。すっかり忘れていた当時のことをふと思い出し、先生が生徒に何を伝えたかったのか、改めて考えさせられました。平和の尊さを次世代に語り継いでいくことは地道な取り組みですが、武蔵野市の平和事業は確実に平和な社会づくりにつながっていると思います。

公募委員 小餅 友子

今年度も様々な事業を通して市内の皆さんに平和の大切さを伝えたいと、委員の皆さんと活動をしてきました。平和な日本、住みたいまち武蔵野市に住んで平和を考える。この恵まれた環境に居られるのは、戦争で犠牲になった市井の人、銃後の人たちの苦労を超えてのことです。平和は戦争の反対語ではないといっても、戦争があつては「安らかにやわらぐこと」「穏やかで変わりのないこと」はあり得ません。悲惨な映像や話しを避けても平和は生まれません。悲惨なことを繰り返さないために、それを直視して、70 年間他国の人も傷つけることなく守り続けた平和を、平和都市武蔵野市から伝え続けたいと思います。

公募委員 中島 敏

2015 年に実行委員となり、16 年にも再選されたので、この機会に 2 年間で振り返って印象に残った催しを挙げてみたい。

15 年夏の催しで上映された米国人作品の映画「ヒロシマ ナガサキ」は、被ばくされた方々へのインタビューを主とする作品だが、被ばく直前、被ばくの瞬間、被ばく後の長い人生に区分して多くの証言がまとめられている。このため、平穏な日常生活が 1 発の原爆によって突然破壊され、その後長い苦難が続いた現実が鮮明に表現されていた。同じ作品が DVD で図書館にあったので、2 度観ることができた。

同年 11 月の大石芳野氏の講演は、アウシュウイツやチェルノブイリ等取材してきた写真家が、原発放射能被害を受けた飯館村の人々の生活の写真と想いを語ったもので、静かな中にも説得力のあるものだった。

16 年 11 月のシンポジウムでは牛田委員が、中島飛行機で製造したエンジンが重慶爆撃に使用されたと語っていた。戦争では、当事者が被害者ともなり、加害者ともなり、ともに甚大な打撃を受けること、紛争解決手段としての戦争が暴力の極であることをあらためて感じた。

武蔵野市非核都市宣言

戦争の惨禍を防止し、恒久平和を実現することは、全人類が切実に念願するところである。

核兵器保有国間で核軍拡競争が激化している今日、とりわけ核戦争を回避し、原水爆の恐れのない世界を確立することは、緊急かつ重大な課題である。

武蔵野市は、平和を希求する世界連邦に関する宣言都市として、人間が人間を滅ぼす危険を防ぎ、人類永遠の平和を樹立するため、非核三原則の完全実施を願い、最大限の努力を傾注するものである。

ここに、われわれは、平和のために貢献する決意を表明するとともに、武蔵野市が非核都市となることを宣言する。

昭和57年3月29日
武蔵野市議会

世界連邦に関する宣言

武蔵野市は、世界の恒久平和と人類永遠の繁栄を保障する世界連邦の建設に同意し、武力国家の対立を解消して、英知と友愛に基づく世界の新しい秩序の実現を希求する。

人類最初の原爆被災国として、また戦争放棄を憲法に明記した国として提唱し得る最適の立場にあることを確信し、この宣言を行ない、他の宣言都市と相携えて、世論を喚起し、これを国政に反映せしめ、速やかに国家宣言を行うとともに、進んで現行の国連憲章の改正により世界連邦の実現を期するものである。右宣言する。

昭和35年6月28日
武蔵野市議会



平成 28 年度

武蔵野市非核都市宣言平和事業の記録

発行 平成 29 年 7 月

武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会

武蔵野市市民部市民活動推進課内

武蔵野市緑町 2 丁目 2 番 2 8 号

電話(0422)60-1829 (直通)